

AIZU IT AKI FORUM  
会津 I T 秋フォーラム2011  
実施報告書



～ITでつなぐ ふくしまの未来～



日時:平成23年10月14日(金)  
場所:会津大学

# ◆◆◆開催概要◆◆◆

- 名 称 「会津IT秋フォーラム2011」  
～ITでつなく ふくしまの未来～
- 開催日時 平成23年10月14日（金）  
9：50～17：10
- 会 場 会津大学講堂及び講義棟
- 主 催 公立大学法人会津大学
- 協賛企業 アクセンチュア株式会社、株式会社エフコム、日本オラクル株式会社、オープンガバメントクラウド・コンソーシアム、タタ コンサルタンシー サービスズ ジャパン株式会社、会津オリンパス株式会社、クアルコムジャパン株式会社、株式会社東邦銀行、会津産学懇話会、公益財団法人会津地域教育・学術振興財団、株式会社F S K、株式会社G C I u e、株式会社住田光学ガラス、株式会社大東銀行東銀行、東北電力株式会社 会津若松市社、会津商信用組合、株式会社あくしゅ、株式会社ナデイス、株式会社東日本計算センター、福島コンピューターシステム株式会社、株式会社プリスコラ



- 後援機関 東北経済産業局、東北総合通信局、福島県、福島県教育委員会、会津若松市、喜多方市、福島県市長会、福島県町村会、特定非営利活動法人超学際的研究機構、一般社団法人福島県情報産業協会、福島民報社、福島民友新聞社
- 協 力 株式会社村上憲郎事務所、株式会社N T T ドコモ、株式会社富士通総研、日本オラクル株式会社、アクセンチュア株式会社、日本アンドロイドの会、クアルコムジャパン株式会社、頓智ドット株式会社、株式会社Eyes,JAPAN、株式会社シンク
- 目 的 会津大学を核として、会津の地から県内はもとより全国各地へ、そして世界に向けてITに関する情報発信をすることで、ITの先進地を目指し、ひいては、当該フォーラムを契機とした、地元産業界、教員、学生と全国各地のIT関係者との様々な交流により新たなビジネスチャンスが生み出され、会津大学及び会津地域のIT産業が持続的に発展していくことを目指す。  
また、未曾有の大災害となった3.11の東日本大震災からの復興をテーマの1つとして掲げ、国内のIT産業にどのような影響をもたらしたのか、震災を乗り越えるためにITをどのように活用できるのかなどを考察する。
- 事業概要 全国のITにかかわる企業人、研究者、学生などが一同に集い、基調講演及び特別講演、2トラック6の分科会を通して、様々な角度からITの次世代について語り合い、交流を深める。
- 来場者数 約650名〔公務員、教育関係者、会社員、自営業者等〕
- 入 場 料 無料

ポスターデザイン  
会津大学短期大学部 阿久津 大樹さん

# ◆◆◆PROGRAM◆◆◆

- 1 受付 [9:00~9:50]
- 2 開会式 [9:50~10:00]  
主催者あいさつ 公立大学法人会津大学 理事長 角山茂章
- 3 基調講演 [10:00~11:00]  
**「スマートグリッドが切り拓く新生スマートニッポン」**  
株式会社村上憲郎事務所 代表取締役 村上憲郎氏
- 4 特別講演 [11:10~12:10]  
**「東日本大震災 被害及び復旧状況と新たな災害対策」**  
株式会社NTTドコモ 執行役員 東北支社長 荒木裕二氏
- 5 会津大学発ベンチャー認定企業によるポスターセッション・展示 [12:10~13:30]  
株式会社Eyes, JAPAN、株式会社シンク
- 6 分科会（詳細は下記のとおり） [13:30~17:10]
- 7 交流会（会津大学レストラン櫛） [17:30~19:00]

	震災とIT産業トラック	Webテクノロジートラック
Chair	会津大学産学イノベーションセンター 准教授 甘泉 瑞応	株式会社GClue 代表取締役 佐々木 陽 氏
分科会 I 13:30~14:30	<b>「大震災後の日本再生」</b> 株式会社富士通総研 代表取締役会長 伊東千秋氏	<b>「IT技術のコンシューマ化とそのインパクト」</b> 日本アンドロイドの会 会長 (早稲田大学大学院 情報生産システム研究科 客員教授) 丸山不二夫氏
分科会 II 14:40~15:40	<b>「番号制度の展開と地域復興のシナリオ」</b> 日本オラクル株式会社 製品事業統括 製品戦略統括本部 戦略製品ソリューション本部 Principal Sales Consultant 下道高志氏	<b>「スマートフォンからM2M (Machine to Machine) へ」</b> クアルコムジャパン株式会社 代表取締役会長兼社長 山田 純 氏
分科会 III 15:50~16:50	<b>「ITによる日本復興方法論」</b> アクセントピア株式会社 福島イノベーションセンター長 中村彰二朗氏	<b>「How to change the World 拡張現実で世界を変えよう！"世界頓智の旅"」</b> 頓智ドット株式会社 CEO 井口尊仁氏
閉会式 16:50~17:10	閉会式	

## ◆◆◆基調講演◆◆◆

### 「スマートグリッドが切り拓く新生スマートニッポン」

**村上 憲郎** ムラカミ ノリオ

株式会社村上憲郎事務所 代表取締役



#### 【講演要約】

スマートグリッドとは、「賢い送電網」のことで、電力網と情報網が束ねられたものです。スマートグリッドの情報網はインターネットですから、現在、電力網に接続している家電品などは、将来的にはすべてインターネットに接続することになります。スマートグリッドとは、物のインターネット（IoT）であると言えます。

スマートグリッドを実現させるための最も重要な機器は、スマートメーターです。スマートメーターとは通信機能を備えた電力メーターのことで、時間帯別、利用機器別のきめ細かい電力消費量を知ることができるだけでなく、電力事業者と企業や家庭の間での双方向通信機能をも備えています。

今夏は、東日本大震災の影響で、東電管内で大幅な電力不足が予想されたことから、電力の使用制限や、計画停電などが実施されました。しかし実は、足りなかったのはピーク時の電力だったのです。これまでの日本の電力供給施策は、ピーク時の電力需要を賄えるよう発電容量を準備しておくというものでしたが、今夏の体験から、電力需要のピークにあたる時間帯の電力消費を低く抑えるピークカット、夜間など比較的電力需要の少ない時間帯に電気を使用する時間を移動したり蓄熱したりするピークシフトなどの重要性が再認識されました。デマンドレスポンス、ネガワット買取といった経済的な合理性に基づく仕組みを取り入れていく必要があります。

来年の夏はデマンドレスポンスで乗り切ることを考えています。これから1年間かけて100万戸へスマートメーターを設置し、緊急時に各戸10アンペアの節電をさせます。このことで節減できる電力はなんと100万kWとなり、原発1基分の電力に相当します。

これからはスマートグリッドが新しいインターネットの地平を切り開いていきます。従来のインターネットの人と人に加えて、人と物、物と物のコミュニケーションが始まるのです。スマートグリッドは、今後の発電や蓄電に必須の取り組みであり、新たなビジネスの展開も期待されています。

## ◆◆◆特別講演◆◆◆

### 「東日本大震災 被害及び復旧状況と新たな災害対策」

**荒木 裕二** アラキ ユウジ

株式会社NTTドコモ 執行役員 東北支社長

〒980-8515 仙台市青葉区上杉1-1-2

TEL: 022-752-5011 FAX: 022-752-5360

URL: <http://www.nttdocomo.co.jp/>



#### 【講演要約】

今年3月11日に発生した東日本大震災は甚大な被害をもたらし、東北地方を中心としたエリアで、携帯電話のサービスが大きく中断しました。NTTドコモでは、速やかに災害対策本部を設置し、設備の復旧と被災者支援を開始いたしました。その対応に当たっては、全国から応援を受け、約4,000人体制で臨みました。太平洋沿岸の設備が手のつけようもないくらいに破壊されてしまうという想定外の被害に対して、皆が自分の持てる経験と知恵を出し合い、全力で復旧に取り組んでまいりました。

通信会社としての優先事項はまずエリアの復旧ですが、それ以外の顧客の要望に我々が何を提供することができるのか、その都度考えて対応いたしました。災害直後は、自分はどこに避難すればいいのか、家族の安否はどうかなどの情報が必要ですが、避難生活が長くなると、必要な情報が変わってきます。要望があったから対応するのではなく、必要となる情報を先回りして公開するようにいたしました。

震災当日は、仙台市内も停電になり、帰宅困難者が多数出ました。市内で明かりがつかっていたのは、自家発電設備がある県庁、電力ビルなど一部に限られたため、NTTドコモ社でも建物内に避難者を受け入れました。避難生活者には、携帯電話を貸し出したり、無料の充電コーナーも設けました。そのほか、復旧エリアマップの公開、ドコモケータイ送金、ドコモポイントなどによる募金受付も開始しました。これらの不眠不休の取り組みの結果、5月末には約99.7%のエリアを復旧させることができました。

これらの経験をもとに、新たな災害対策の基本方針として、「重要エリアの確保」「被災エリアへの迅速な対応」「お客様のさらなる利便性向上」を柱に災害対策を強化していきます。今後とも、通信会社としての責任を果たすべく、いざという時の通信の確保に積極的に取り組んでまいります。本講演が、これからも起こりうる災害に、どう動き何が貢献できるのかを御考察いただける機会になれば幸いです。

Chair : 会津大学産学イノベーションセンター  
准教授 甘泉 瑞応 (カンセン ミズオ)

### 「大震災後の日本再生」



**伊東 千秋** (イトウ チアキ)  
株式会社富士通総研 代表取締役会長  
〒105-0022  
東京都港区海岸1丁目16番1号 ニューピア竹芝サウスタワー  
TEL : 03-5401-8391(代) FAX: 03-5401-8395(代)  
URL : <http://jp.fujitsu.com/fri/>

東日本大震災は、エネルギーやサプライチェーン等々でも東北・福島が大きな役割を占めていることを再認識させました。また、長期的な電力不足という新たな制約を日本にもたらしました。サプライチェーンへの懸念も企業の海外立地を促し、産業の空洞化につながる心配があります。さらに、不正確・不十分な情報による風評被害の問題もあります。これまで、様々な社会的な課題が先送りされ続けてきました。今こそ、日本再生に向けて、私たちの勇気と実行が求められています。それには、人びとの知恵を集めて様々なイノベーションを興さなければなりません。

一方、ICTの世界ではクラウドが大きく進展しつつあり、社会的課題の解決、イノベーションのためのツールとして期待されています。

新しい日本に向けて、私たちは何をしたらよいかを皆さんとご一緒に考えたいと思います。

### 「番号制度の展開と地域復興のシナリオ」



**下道 高志** (シタミチ タカシ)  
日本オラクル株式会社 製品事業統括 製品戦略統括本部  
戦略製品ソリューション本部 Principal Sales Consultant  
〒107-0061  
東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター  
TEL : 03-6834-6666(代表)  
URL : <http://www.oracle.com/jp/index.html>

公募により「マイナンバー」と名称が決まった「社会保障と税の番号」。かつて「国民ID」と呼ばれた「番号」を利用する制度によって、国民に、そして地域にどんな恩恵があるのか。個人のプライバシーを守るためにはどうしたらいいのか。またそれを実現するための情報システムはどうなるのか。地域復興にはどうかかわってくるのか。官民様々に論じられ予定されている番号制度とITの全体像をご紹介します。

### 「ITによる日本復興方法論」



**中村 彰二郎** (ナカムラ ショウジロウ)  
アクセンチュア株式会社 福島イノベーションセンター長  
〒965-0006  
福島県会津若松市一箕町大字鶴賀字上居合134-5  
TEL : 0242-37-7392 FAX : 0242-37-7393  
URL : <http://www.accenture.com/jp>

日本は戦後復興後も東京一極集中モデルを効率化の観点から追求し続けてきました。

そのため、交通網、送電網、通信網全てのインフラ網は東京を起点としてスター状に全国につながるようデザインされています。

このたびの震災で東京から東北に伸びる全ての基幹インフラ網は切断され、復旧復興を遅らせる要因となりました。本講演では、日本の新たなデザインを目指し、あるべき社会インフラの考え方を示します。

Chair : 株式会社GClue  
代表取締役 佐々木 陽 (ササキ アキラ)

### 「IT技術のコンシューマ化とそのインパクト」



**丸山 不二夫** (マルヤマ フジオ)  
日本アンドロイドの会 会長  
(早稲田大学大学院 情報生産システム研究科 客員教授)  
URL: <http://marulec.cloud-market.jp/archive/>

SNSをはじめとしたクラウド・サービスの拡大とスマートフォンの爆発的な普及に見られるように、ITのメリットを万人が享受する、IT技術の「コンシューマ化」とも言うべき現象が急速に拡大しています。

講演では、こうした動きの背景を探るとともに、それがどのようなインパクトを我々に与えつつあるかを考えます。特に、それが、日本のIT技術者にとって、どのような可能性をひらきつつあるかについて、お話しできればと思います。

### 「スマートフォンからM2M(Machine to Machine)へ」



**山田 純** (ヤマダ ジュン)  
クアルコムジャパン株式会社 代表取締役会長兼社長  
〒107-0062  
東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館18F  
TEL : 03-5412-8900 FAX : 03-5412-8956  
URL : <http://www.qualcomm.co.jp/>

3Gから4Gへ、802.11nからac,adへなど、無線通信技術は高速化、大容量化へと進化が続いています。クアルコムはその渦中でリーダー的役割を果たしています。ITUやIEEEで標準化されつつあるそれら新技術は、もっぱらスマートフォンで使われることを想定していますが、昨今、無線通信技術の新しい用途としてM2Mが注目されてきました。

M2Mは、“Internet of Things”(IoT)と呼ばれる、ありとあらゆるものがインターネットに繋がる世界を前提にしています。M2Mによって、従来には考えられなかったサービスやアプリケーションが生まれます。例えば、スマートメーターによるエネルギー分野、ITSによる自動車分野、センサーネットワークによる安全・監視分野など、適用分野は無限です。しかし、M2Mは安価なモデムチップがあれば実現するわけではなく、技術的、事業的な課題が少なくありません。Arduinoのようなオープンハードウェアを上手く活用することは端末において有効ですし、端末やデータの管理を行うサーバー機能も重要と思われる。クアルコムのM2M分野への取り組みを紹介します。

### 「How to change the World 拡張現実で世界を変えよう！"世界頓智の旅"」



**井口 尊仁** (イグチ タカヒト)  
頓智ドット株式会社 CEO  
〒160-0022  
東京都新宿区新宿2-5-12 FORECAST新宿AVENUE 5F  
URL : <http://www.tonchidot.com/ja/>

2008年にシリコンバレーで産声をあげた頓智はよりオープンマインドな世界を実現する為、セカイカメラを始め拡張現実技術を通じたグローバル展開を進めています。ソーシャル・ネットワークの次世代にどういった時代を創造すべきなのか？ 拡張現実でモバイルインターネットがいかにかに進化を遂げて行くのか？ 現実の体験、試行錯誤を経て体得したリアル・ストーリーをお届けします！

# ◆◆◆写真レポート◆◆◆



主催者あいさつ 角山 茂章 学長



基調講演 村上 憲郎 氏



特別講演 荒木 裕二 氏



分科会1-1 伊東 千秋 氏



分科会1-2 下道 高志 氏



分科会1-3 中村 彰二郎 氏



分科会2-1 丸山 不二夫 氏



分科会2-2 山田 純 氏



分科会2-3 井口 尊仁 氏



基調講演・特別講演の様子



会津大学発ベンチャー企業の展示



会津大学シーズの展示

## ◆◆◆おわりに◆◆◆

本フォーラムは、平成19年度より、会津の地から全国へそして世界へITの情報を発信し、ITの先進地を目指すという目標を掲げ、開催してまいりました。

5年目を迎える今年は、「ITでつなぐ ふくしまの未来」をテーマとして掲げ、震災時及び復興の中で、スマートグリッド、情報通信、Webテクノロジーなどに関する最先端のITをいかに活用していくかについて、議論を深めることを目的に開催いたしました。多くの方々に御興味を持っていただき、例年を大きく上回る650名の方々に御来場いただきました。

講師の方々を始め、本フォーラムの開催に御協力いただきました皆様方に対し、深く敬意と感謝の意を表しますとともに、会津地域が今後の日本、さらには世界をリードするITの先進地となりますよう努めてまいりますので、今後とも御支援、御協力をお願い申し上げます。



| 会 | 津 | 大 | 学 |

## 会津IT秋フォーラム2011実施報告書

〒965-8580

会津若松市一箕町鶴賀字上居合90番地  
公立大学法人会津大学

電話：0242-37-2511

F A X：0242-37-2546

URL: <http://www.ubic-u-aizu.jp/it-forum/>